

# エコシター

## 1月号

### 新年の御挨拶

あけましておめでとうございます。いつもアジェンダの活動にご支援を賜りまして大変ありがとうございます。旧年中はコロナ禍で思うように活動ができず、環境団体の皆さまもご苦労されました。しかし逆風はある意味チャンスと言えるかもしれません。今年もいろんなアイデア、工夫して進めてまいります。さて、去年は環境分野において、大きな変革がスタートしました。菅首相のもと、2050年二酸化炭素排出ゼロが国家戦略として位置づけられ、後戻りのできない社会変革に向けてスタートしました。技術革新や産業構造の変革などが急ピッチで進んでまいります。そのような中、自治体レベルでもこれまで以上に三者協働での取り組みに力を入れることになってきます。アジェンダも三者協働で環境先進都市すいたの実体化を目指して頑張っております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(アジェンダ 21 すいた 代表 三輪信哉)

### もくじ

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| ■表紙 新年の御挨拶                 | …1   |
| ■すいたクールアースウィーク             | …2~3 |
| ■日経西日本インカレ                 | …4~5 |
| ■大阪学院大学図書館・関西大学図書館・吹田市立図書館 | …6   |
| ■本紹介                       | …7   |
| ■各種募集・イベント紹介               | …8   |

# すいたクールアースウィーク

## ～市役所本庁舎ロビー展示～

### ムーン ライト コンサート 写真館

コンサート出演者は吹田市民から募集し、コンサートで使用する電力は全て、太陽光パネルで発電した電気を電気自動車に充電したものを使用するイベント。  
今年新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、来年こそはコロナに負けず、開催を目指します！



平成29年度  
@千里南公園



平成30年度  
@まるたす広場



令和元年度  
@江坂公園



ガンバ大阪の宮本監督はじめ3人の選手の方のご協力  
で今年もポスターを作成することができました。しかし、今年  
は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止ため、3年間続いた  
ムーンライトコンサートができませんでした。

ロビー展示では、これまでのコンサートの様子を写した写真や  
昨年のクールアースウィークのイベント(協力団体)情報、SDG  
s、エネルギー部会や自然部会、食品ロス削減フラッグシップ  
プロジェクトの活動、また冬に向けてウォームビズのご案内、ア  
ジェンダ21すいたへの参加お誘いなど、ポスター掲示しまし  
た。  
(地球温暖化 FSP 池淵佐知子)

## ～G ステージ～

クールアース期間の10月31日、パナソニックスタジアム吹田の  
入場ゲート前の特設ステージ「吹田 G ステージ」にてガンバサポーターの  
皆様に対し啓発活動をさせていただきました。試合前にガンバチアダンス  
チーム&キッズチアによるパフォーマンス、ミュージシャンによる生  
ライブなど、様々な催しが開催される場所とあって、多くのサポーター  
の皆様が足を止め、耳を傾けてくださいました。

ガンバ大阪の選手がエコアクションについて呼びかけているパネルを我々  
スタッフが掲げ、環境省が作成した動画『気候変動への挑戦』、吹田市の  
職員の方々が企画・出演されたアクションリレー動画を視聴してもらい  
ながら、地球環境を守るために、一人ひとりができることから取り組もうと  
訴えました。

(地球温暖化 FSP 馬場慶次郎)



## ～SDGs ボールリレー～

環境に配慮した取組をSDGsに関連させて紹介したアクションリレー動画↓





～神崎川プラごみゼロアクション  
海洋プラスチックごみを減らそう～

11月1日(日)、クールアース関連事業として、前年に引き続き神崎川プラごみゼロアクションを開催しました。参加者は幼稚園児から80歳代までの27人。コロナ感染防止策をとりつつ、張り切って江坂から出発。江坂付近は計3.1kgで、歩道の隅や溝に吸殻など小さなプラごみが目立ちました。河川敷は計41.6kg。プラスチックの部品を含む電化製品や自転車部品、生活用品などが重量を押し上げました。途中2か所に不法投棄とみられる大量のごみがあり、資源部会のMさんが市の担当課に通知してくれました。アジェンダ21すいたから体温計やアルコール、予備のマスクや手袋を、吹田市からごみ袋やトンクをお借りました。ありがとうございました。お天気に恵まれ、ごみを集めながら河川敷を歩くのは大変ですが楽しかったです。次年度も改善を重ねて実施したいと思います。



(NPO 法人すいた市民環境会議 喜田久美子)

～吹田環境学習協会(SELF)の取組み～

すいた環境学習協会はアジェンダ21すいたが提唱する「地球温暖化の防止に向けた全市の取組推進」に賛同して、10月20日(火)から11月3日(火)の2週間を運動期間として、省エネ・節エネへの取り組みを会員の皆さんにお願いし、その結果をまとめました。

対象	取組み項目	具体的な取組み・工夫
電気(節電)	室内の照明	照明をLEDに切り替える
		人感センサー付きにする
		明るさを中程度にしている 部屋を出るときには消灯する
冷蔵庫の開閉を減らす	内部を整理して素早く出す 必要な食材をまとめて一度に出す	
	開閉には常に気を付けている	
ガス	トイレの便座	保温にしないでシールを貼る
		二度だきしないように工夫している
		声をかけあって速やかに入浴を済ませる 家族の入浴時間に合わせて沸かす
水(節水)	調理の時の節水	小さな食器の利用で、洗う時間の短縮を図る 洗剤をすぎないようにして洗う
	風呂の残り湯の利用	洗濯に利用する 植木・菜園に利用する
プラゴミ削減	レジ袋の削減	マイバック・エコバックを常時持参している
クルマの利用	買い物・近くへの外出	ほとんど歩き・自転車の利用
	遠方への外出	市内は自転車を利用 荷物がなければ公共交通機関 止むない外出はコロナ禍のためクルマを利用

- ・今回の取組みの結果から、日常生活でのちょっとした気づきでの行動が、省エネ・節エネにつながり、地球温暖化防止への取組となる。
- ・運動期間からエアコンを取組項目から除外したが、暖房の時期となり、コロナ禍での設定温度と換気とを工夫した暮らし方が望まれる。

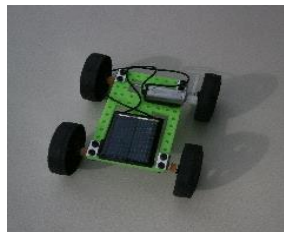
(すいた環境学習協会 菅田)

～ミニソーラーカー工作&「そらくる号」乗車体験～

11月1日(日)にくるくるプラザ(吹田市資源リサイクルセンター)において、ミニソーラーカー工作とソーラーカーの「そらくる号」の乗車体験を行いました。当日は、1部と2部併せて40名の子供たちと保護者で大変にぎわいました。

前半では、関西を中心に年間50件以上の実験教室、実験ショーに活躍されている船田智史さん(立命館大学総合科学技術研究機構客員研究員)に、クイズや実演を交えて、エネルギー問題をわかりやすくお話していただきました。後半では、親子でミニソーラーカー作りにチャレンジしました。親子で協力して工作している姿が、とてもほほえましかったです。当日は日差しが少なかったため、作ったミニソーラーカーにライトを当てて走らせてみましたが、意外とよく走りました。そのあと「そらくる号」にも乗車体験をするなど、楽しみながら環境への意識を高めるよい機会となりました。

((公財)千里リサイクルプラザ 大森)



～プロギング in 吹キャン! 大阪大学環境サークル GECS～

10月31日(土)にすいたクールアースウィークの一環として、北千里駅から大阪大学吹田キャンパスにかけてプロギングを行いました。プロギングとは、ゴミ拾いしながらジョギングするという、北欧発祥のアクティビティです。当日は秋晴れで心地よくプロギングすることができました。8人で1時間ほどかけて燃えないゴミ0.75kg、燃えるゴミ、1.25kg、たばこを150本ほど拾いました。

(GECS 石本梓穂)

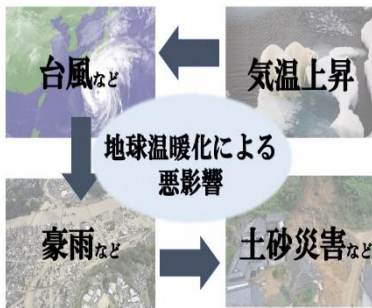


# 日経西日本インカレ

私たち良永ゼミは、2020年11月22日(日)の日経西日本インカレに向けて新しいビジネスモデルを考えました。新型コロナウイルスの影響でゼミでの活動が制限されたり、大会自体もオンラインでの開催になりましたが、班で活動していた半年間はとても充実した日々でした！結果的には予選を突破することはできませんでしたが、環境についての問題点や改善策などを紹介したいと思います。

## エネ班

### 自然災害



私達は日本の電力構成において火力発電の占める割合が高く、環境に負荷を与えています。それに伴い、気候変動やそれによる自然災害が近年では多発していることから、クリーンなエネルギー、すなわち再生可能エネルギーにシフトすることによって今後の日本や世界を持続可能なものにすることをテーマに取り組みました。再生可能エネルギーといえば、太陽光発電であり、とても普及率が高いです。その要因としてはFIT制度が挙げられます。しかし、気候に左右されやすく、安定的に電力が供給できないことから今後の日本の電力構成を賄うには、力不足であると考えました。そこで私たちが注目したのが地熱発電です。安定的に電力を発電できる点や日本には世界で3番目の地熱資源を保有している点がメリットとして挙げられます。また、その点だけに留まることなく、廃熱が発生する点に注目することで、熱をビジネスに取り込むことで普及速度を促進させるべき。という提案をさせていただきました。(家庭の電力消費の内訳に占める熱の割合はなんと約60%)

そこで私達は、電気と同様に熱にも買取制度を作ることで、地熱発電を普及させることができると提案しました。また、地熱発電のみならず、その他の発電や温泉、工場などから発生する廃熱にも焦点を当てて制度化することによって、無駄となっていたエネルギーを有効的に活用することによって国単位でグリーンになっていくのではないかと考えます。最後に、今回の研究テーマは新たな提案はもちろんですが、日本や世界の現状を理解し、一人ひとりが意識的にエネルギーを使用することは非常に大切であると改めて実感させられました。

## プラごみ班

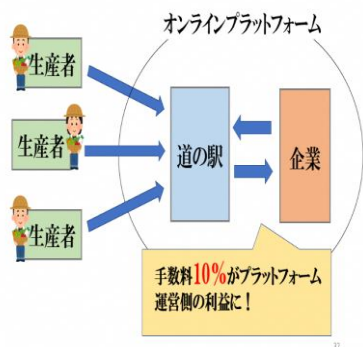
私達の目的は使い捨てプラスチックを削減することで環境汚染を食い止めることです。今までに生産されてきたプラスチック生産量は約83億トンであり、その内の約63億トンが廃棄されているのです。この63億トンが焼却や不法投棄されており、その結果、二酸化炭素排出による地球温暖化、海洋汚染や土壌劣化につながっているのです。そしてこのような汚染が今後続いていくことになると、地球上では取り返しのつかない事態になる恐れもあります。このような事態を食い止める為に私達はどうすればプラスチックを削減できるか研究しています。

私達の取り上げる研究テーマは、プラスチックの増加から発生する地球温暖化や海洋プラスチックなどの環境問題です。プラスチックは製造時や焼却時に二酸化炭素を排出することから地球温暖化に大きな影響を与えており、自然界へ放出され、海まで運ばれることで他の生物の生育にも影響が及んでいます。このような大きな問題を含んだプラスチックが増加してしまっている最も大きな要因として、プラスチックの使い捨てが挙げられます。使い捨てプラスチックは、その便利さゆえに、私たちの生活になくてはならない存在となってしまっています。例えば、レジ袋やペットボトル、容器包装といったあらゆる使い捨てのプラスチックは、増加の一途を辿っており、今後も増え続けていくことが予想されます。それゆえ、このようなプラスチックを完全に無くすことは非常に困難であります。さらに、プラスチックの製造には有限な地球資源である石油を用いることから、今の使い捨て消費には必ず限界が訪れてしまいます。そのため、このプラスチックの増加の流れを食い止めることが最優先課題であると考えました。現在の一方通行である使い捨て消費から脱却し、循環型の持続可能な消費に切り替えていくことを目指していかなければなりません。



## 食農班

販売経路のイメージ図



近年では、温暖化による気候変動により、食品廃棄量が増加しています。その食品廃棄量の中には、市場流通前に選別する段階で廃棄される「新鮮で味も劣らない農作物」も大量に含まれています。ここで問題となるのが「食べられる物まで捨てている」ということです。農家の方の話では廃棄するのは簡単だが新鮮で味も劣らない規格外作物も買ってもらいたいと考えていると伺いました。規格により販売できない要因となっている作物の見た目は加工することで解決できるため、食品を加工する企業であれば見た目以外は品質に問題のない規格外作物にも需要があります。また、価格の面でも規格外作物は比較的安価に購入できるため海外作物の代用も可能です。このように食品を加工する企業に規格外作物を買い取ってもらうことで食品ロス削減に貢献できると考えました。しかし、農家の方は生産の専門家であるため自ら販路を開拓することは容易ではありません。そこで、農業大国アメリカで流行し、4500万トンの食品ロス削減に貢献した「Full Harvest」に注目しました。こちらは農家が規格外作物を企業に売するためのオンラインプラットフォームです。オンラインプラットフォームでは個人で行うよりも大きい市場を得ることが可能で、豊富なサービスや商品の提供ができ、移動コストが削減できるという利点があります。しかし、企業向けのオンラインプラットフォームは日本で普及していません。その理由としては、土地や技術面から一人あたり農家の規格内作物の生産力が乏しいため、生産力が小さい農家は仮に企業と一対一の販売を始めても生産量と企業需要にギャップが生じて安定した取引を継続できないことが挙げられます。そこで正規品と同様に、規格外作物を集約して企業に届ければ安定供給は可能なのではないかと考えました。その集約方法として、私たちは道の駅と企業をつなぐオンラインプラットフォームを提案します。生産者は道の駅に商品を提供し、そこから企業に向けて商品を発送することで、既存の流通体系を活かしたプラットフォームを確立できます。今回の研究では、日本が抱える農業形態を考慮した上で、食品ロスの削減に関する提案を行いました。

私達はアパレル産業が大量生産・大量廃棄の循環を生み出し、環境に多大なる影響を与えている現状を少しでも改善することはできないか？ということをテーマにしました。アパレル産業における年間廃棄量は企業と消費者合わせて100万トンあると言われています。これは枚数に換算すると30億着以上になります。また、服を生産する際には、綿Tシャツ1枚当たり約2700ℓ、材料であるコットン1kgを生産するためには2万ℓ以上の水を消費します。他にもCO2排出量は約21億トン、近年注目されているマイクロプラスチックは年間50万トンも排出されています。このような影響を与えているにも関わらず、アパレル産業は大量生産・大量廃棄が繰り返されています。そこで私たちはこの状況を改善するために、消費者の需要数をそのまま生産する受注生産に注目しました。受注生産で正確な需要量を生産することは大量生産から適量生産へと移行していきます。企業側からすると無駄が一切ないので、在庫廃棄する必要がありません。しかし同時に消費者が服を大事にする意識が無ければ、大量消費・廃棄はなくなりません。つまり消費者が服を大事にするという意識が加われば企業・消費者共に環境問題改善に繋がると私達は考えました。そこで提案したのが生産を決めるのは消費者というイイね受注生産です。各商品にイイねのボーダーラインを設定し、それを超えた商品のみ生産します。メリットとしては、上記で述べたように適量生産が出来るということ。次に消費者の服の価値観が向上すること。これは自分のイイねで生産されていることや、受注生産という限定感を消費者に与えることで、服を大事にしようという気持ちを向上させるということです。最後に企業のデザイン性向上です。企業もイイねを集める為にトレンドを取り入れている服や他にはない独自のデザインに拘ることでデザイン性が向上していくというものです。このような環境問題を考慮したビジネスモデルが広がれば、改善への第一歩になると思います。しかし今回の研究で、問題の規模の大きさに比べ認知度があまりにも低いと感じました。そのため、私達はまずはこの現状を知ってもらうことが本当の第一歩になると思いました。

## アパレルごみ班

生産を決めるのは消費者



# 図書館インタビュー



## ～特別展示

### 「すいたクールアースウィーク-地球温暖化と伝統の暮らし～」

大阪学院大学図書館では、特別展示「地球温暖化と伝統の暮らし」をすいたクールアースウィークを含む10月1日(木)～11月30日(月)の2か月間、図書館2階企画展示コーナーで開催いたしました。今年の展示は地球温暖化防止についての図書に加え、プラスチックゴミ削減の観点から日本の伝統である「ふろしき」や「てぬぐい」、「くらしの折り紙」についての図書も一緒に展示いたしました。

## ～関大図書館～

関西大学図書館では、2階にアジェンダのブースを設置し、教員推進図書やアジェンダ会員の方からの推薦本を中心に様々な書籍を展示していました。

以前からも継続的に取り組んでいることから、学生間でも気になる人や貸し出しされる方も日々増加傾向にあります。また、吹田市と共同し、打ち出している書籍の貸し出しに関しても大変人気である状況でした。関西大学図書館での取り組みから、社会的にも注目されつつある環境やSDGsに対する学生間の興味関心は高まっていることが伝わってきました。今後もSDGsを発信する取り組みを予定しておられ、2025年の日本国際博覧会時には今以上にトレンドになることを予想されていました。

取材に協力してくださった北野様ありがとうございました。

(良永ゼミ 後藤)

**KU Library thinks SDGs 2020**  
2020.9.21 Mon. - 2021.1.30 Sat.

関西大学図書館では、KANDA! for SDGs推進プロジェクトと連携し、SDGsの達成に貢献できるよう、図書館の特性を活かした取組みを昨年度より実施しています。新型コロナウイルスによって、これまでのやり方が通用しない。人類にとって新たな社会課題を突き付けられた今だからこそ、SDGsが目標とする「持続可能な社会」について共に考えていきましょう。

**SDGsを共有する7つのアプローチ**

- 1 教員推薦図書の展示**  
2020.9.21 Mon. ~ 2021.1.30 Sat.  
総合図書館2階開架カウンター前  
学部横断型科目「SDGs入門」担当教員による推薦図書(10/1~展示開始)を新たに追加し、17の目標を達成するためのヒントとなる本を展示します。
- 2 企画展**  
『向きあう、広がる、新学期：Sustainable Development Goals』  
2020.9.21 Mon. ~ 2021.1.30 Sat.  
総合図書館2階開架カウンター前  
『ウィズコロナ時代のキャンパスライフ』に参考となる本を4期に分けて展示することで、身近な大学生活を通して「SDGsとは何か?」について考えていきます。
- 3 視聴覚資料の展示**  
『SDGs audiovisual selection』  
2020.10.1 Thu. ~ 2020.12.26 Sat.  
総合図書館2階A/V資料閲覧コーナー  
本だけでなく、映像でもSDGsに対する理解を深められるような視聴覚資料を展示します。
- 4 特設ページ**  
『SDGs e-book selection』  
2020.9.21 Mon. ~ 2021.1.30 Sat.  
図書館ウェブサイト 特設ページ  
https://kansai-u.libguides.com/c.php?g=933668&p=6750014  
SDGsの各目標に関連する電子書籍を気軽に閲覧できるよう図書館ウェブサイト上に、特設ページを設けます。
- 5 「すいたクールアースウィーク」コラボレーションブースの設置**  
2020.10.1 Thu. ~ 2020.11.16 Mon.  
総合図書館2階開架カウンター前  
地球温暖化防止に向けた取組「すいたクールアースウィーク」(主催 アジェンダ21すいた)とコラボレーションしたブースを設置します。
- 6 教員推薦図書の高等学校への貸出**  
『KU Library thinks SDGs 2020 in high school』  
2020.9.29 Tue. ~ 2020.12.3 Thu.  
2021.1.13 Wed. ~ 2021.2.3 Wed.  
水都国際高等学校・関西大学高等部・上宮高等学校・真真高等学校(貸出順)  
KANDA! for SDGs推進プロジェクトによる教員推薦図書を高等学校へ貸出を行い、次代を担う高校生と本取組を共有していきます。
- 7 教員推薦図書の書店巡回展示**  
『KU Library thinks SDGs 2020 in KINOKUNIYA』  
2020.11月 ~ 2021.1月(予定)  
紀伊國屋書店各店舗  
一般の方にもSDGsへの理解を深め、本取組を共有いただけるよう、書店において、教員推薦図書の紹介ブースを設け、全国各所を巡回展示します。

and more

問い合わせ 図書館事務室サービス担当 ☎06-6368-0290 ✉ku-library@ml.kandai.jp

## ～市立図書館～

クールアースウィーク2020の期間中、吹田市立図書館で環境や月に関する特設コーナー設置がありました。多くの方に本を通じて環境のことを考えていただく機会になったかと思えます。期間中に借りることができなかった方は、ぜひ図書館で手に取ってご覧ください。(協力:吹田市立図書館)

『お月さまってどんなあじ?』ミハエル・グレイニェク/絵と文(セーラー出版)

『地球温暖化は解決できるのか』小西雅子/著(岩波書店)

『知識ゼロからの異常気象入門』齊田季実治/著(幻冬舎)

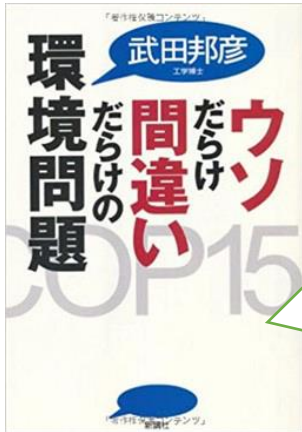
『ザ・ソウル・オブくず屋』東龍夫/著(コモンズ)

『地球温暖化』西岡秀三/監修(ニュートンプレス)

『すいたんのCO2大作戦R』(吹田市環境部環境政策室)

(地球温暖化 FSP 池淵佐知子)

# 本紹介



エネ班：『ウソだらけ間違いだらけの環境問題』

著者：武田邦彦

温暖化に関してはマイクル・クライトンが『恐怖の存在』でその怪しさを指摘した。だけど世の中は「温暖化」が進んでいると見ていると言っていい。どちらが本当かと長年悩んできた。武田先生がクライトンと同じく「温暖化は嘘だ」と主張していると知ってこれを借りました。

食農班：『SDGs(持続可能な開発目標)』 著者：蟹江憲史

SDGs は国連で採択された「未来のかたち」だ。健康と福祉、産業と技術革新、海の豊かさを守る等、経済・社会・環境にまたがる 17 の目標を 2030 年までに達成することを求めている。「だれ一人取り残されない」ために目標を設定し、取組方法は裁量に任されているのが特徴だ。ポスト・コロナ時代に、企業・自治体、そして我々個人はどう行動すべきか、第一人者が SDGs の本質を解き明かします。



プラごみ班『「脱炭素化」はとまらない! ～未来を描くビジネスのヒント～』

著者：江田健二、坂口幸雄、松本真由美

「脱炭素化」はなぜ必要か。どう取り組めばいいのか。2010 年代の助走期間を過ぎ、大きな変革期を迎えている「エネルギー産業」。世界の流れから日本の方針を踏まえて、日本・米国での企業や官公庁の取り組み、事業展開を紹介します。





## 各種募集・イベント案内



### ◇すいた環境教育フェスタ 2021（ウェブ開催）◇

環境に配慮した活動や取組の動画などをウェブ上で閲覧できます！ 吹田市内で行われている環境保全活動はどんなことがあるのか？ 企業などではどんな活動がされているのか？ あなたにできることは？ 環境についてオンラインで楽しくおうち時間を使って学びましょう！

◆主催／吹田市 ◆問い合わせ 電話(06-6384-1782)、メール(env-keihatsu@city.suita.osaka.jp)

◆詳細 市報すいた3月号や市ホームページに掲載予定

※出展作品は3月中旬より市ホームページにて公開予定！（アジェンダ21 すいたからも出展予定です。）



### ◇食品ロス削減講座「冷蔵庫収納のすゝめ」◇

冷蔵庫の収納術を通じて、まだ食べられるのに捨てられる食品の減らし方についてお話いただきます。

◆とき／令和3年2月20日(土)午後2時00分から午後4時00分まで ◆受講方法／

【Zoom】市から発行されるミーティングIDとパスワードで参加 ◆講師／Happy Life 山崎

由香氏 ◆主催／吹田市 ◆申込方法／電話(06-6384-1702)、FAX(06-6368-9900)、メール

(k\_genryo@city.suita.osaka.jp)いずれかにて、名前（ふりがな）、電話番号、メールアドレス、を記載して申込してください。 ※メールアドレスをお伺いするため、FAX またはメールでの申込みに御協力ください。



#### アジェンダ21 すいた会員募集

アジェンダ21 すいたは、持続可能な社会を目指す市民、事業者、行政のパートナーシップ組織です。地球温暖化防止や食品ロス削減をはじめ、様々な取り組みを実践しています。あなたも一緒に活動しませんか。

入会希望の方は、アジェンダ21 すいた事務局まで

【アジェンダ21 すいた事務局】

〒564-8550

吹田市泉町1-3-40

吹田市役所環境部環境政策室内

TEL 06-6384-1782

FAX 06-6368-9900

#### ～エコレター編集担当 関西大学良永ゼミより～

##### ●編集後記●

あけましておめでとうございます。今回で私達の編集は最後となり、次回のエコレターからは後輩にバトンタッチします。最後の編集作業ということで、気合もいつもの2倍で書きました！今までのエコレター編集を振り返ると、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、顔を合わせて集まることができず、大変なことも多々ありましたが最後まで作成できて今では社会に出るための力も身についたと感じております。1年間と短い期間でしたが、ありがとうございました。今後とも良永ゼミをよろしくお願い致します。

（良永ゼミ：小山、佐藤、後藤）

